

10月半ばから始めた各小学校・中学校への訪問支援の依頼に、校長・教頭先生に会って、直接、支援内容を説明して理解をして頂き連携体制を構築できればと思い学校訪問を実施しています。

11月4日と6日に、市内の中学校・小学校をそれぞれ訪問し、今回のWAM助成事業による「訪問型家族支援」について、校長先生・教頭先生と意見交換を行いました。

市教委から各学校へ事業概要とチラシを周知していただいたことを受けて、ある学校では「保護者向けにメーリングでお知らせしました」といった報告を聞くことができました。

また、「初期支援の段階で学校としてどのように案内することが望ましいか」といった具体的な相談もいただき、学校現場の姿勢や関心の高さを感じる場ともなりました。

6日に訪問した小学校での説明では、早期に家族を支えることの重要性については学校側も大変理解されており、これまでスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーにつないで支援してきたものの、家族が支援を諦めるということで改善が難しいケースがあるという現状が共有されました。

その上で、「訪問看護師による寄り添った伴走支援があるのであれば、支援の選択肢としてぜひ紹介したい。学校としてどのように伝えればよいか教えてほしい」という前向きなご意見をいただきました。

そこで、学校から家族に支援を案内する流れとして、スクールソーシャルワーカーやカウンセラーにつなぐ際に「もう一つの選択肢として、訪問看護師による訪問支援もあります」と紹介していただけるようお願いしました。あくまでも、どの支援を選択するかは家族自身が決めるものですが、支援の幅が広がるのが家族の安心につながります。

学校のトップの考えによって紹介方法や連携体制が変わるため、丁寧な説明と理解の共有が、適切な支援につながる大きな鍵となります。現在も引き続き、各学校へ伺い支援内容の説明を行いながら、連携の基盤づくりに取り組んでいます。

学校に行って直接校長・教頭先生と意見交換する中で、もっとこの支援を知っ

ていただくことと早期に支援するにはどのような連携が必要かふりかえりました。

学校として保護者の相談に関しては、スクールソーシャルワーカーやカウンセラーを通じて支援していることを話される。

スクールソーシャルワーカーやカウンセラーと法人の実施している訪問看護師の特性の比較によっての違いを知って頂くのと、早期の支援を達成するには保護者からの相談をいち早く訪問看護による支援につないで頂くことを求めることを周知するには、県教育委員会にも理解を求めて、いち早く連携した支援を構築することが求められると思った。

学校として、どのように紹介すればよいですか、ということだったので、初期の段階で早期に支援することが解決につながるので、家族が困っているということを聞かれたときに、スクールソーシャルワーカーやカウンセラーにつなぐように家族に訪問型の家族支援がありますが利用してみませんか、とチラシを渡していただき直接家族から法人に問合せして頂くように働きかけて頂くことが最善です、と伝える。

あくまでも家族が身近に寄り添った専門職による訪問型の伴走支援を求めることが第一なので、と伝える。

小・中学校へ訪問しての家族支援説明終了及び予定

10月15日：小戸小学校（教頭先生）

10月20日：宮崎中学校（教頭先生）

10月24日：宮崎小学校（校長先生）

10月29日：潮見小学校（教頭先生）

11月04日：櫛中学校（教頭先生）

11月06日：大淀小学校（校長・教頭先生）

11月10日：県教育委員会（同和教育・生徒指導課）

11月12日：大宮小学校（教頭先生）

また、大淀地区民生委員児童委員協議会の会長より、「WAM助成事業について詳しく講話をしてほしい」と依頼を頂きました。

10月1日に宮崎市民生委員児童委員の月例会で、事業の概要を5分ほど説明したことを覚えていてくださり、地域の相談役として、不登校に関する課題にどのように連携して対応できるかを検討するうえで、支援内容を詳しく知りたいとのことでした。

地域の中で必要な家庭があれば連携して支えていきたいという思いからの講話依頼であり、ぜひ機会を設けてお話しさせて頂く予定です。  
早速、講話の日程の連絡いただき、11月27日に決まりました。